

北海道教区報

第571号

発行所

天理教北海道教務支庁
札幌市中央区南8条西11丁目
電話011(561)-1148
FAX011(561)-1190
tenrikyo.hk@gmail.com

印刷
三浦印刷株式会社

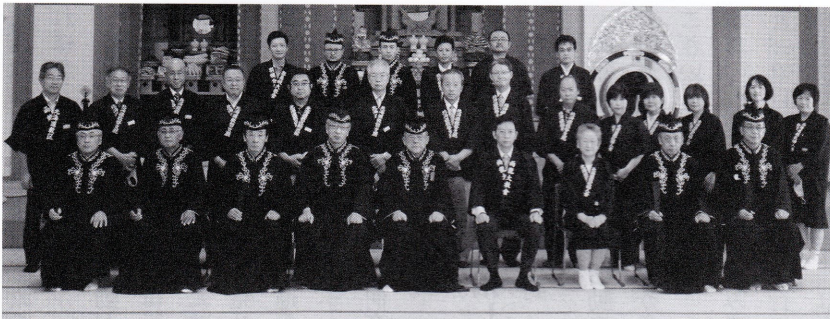
立教百八十四年の新春を迎え 心よりお慶びを申し上げます

北海道教区長 西垣 定洋
他 役員員一同

昨年は、大変厳しい年でありました。今年も引き続き大節の中ではありませんが、心勇んで明るくつとめさせて頂きましよう。

教典第十章に、

『明るく勇んだ心、それは陽気な心である。この陽気な心で日々を送るところに、真の幸福があり、生き甲斐がある。いかに程長く道をたどっても、心が勇まずに、いずんでいては、親神の心にならぬ。親神の守護のままに、日々、喜びと楽しみの中に生活するのが、人の世のこの上ない味である。閉ざれた心の窓を開き、遍き親神の光を身に受ける時、自ら暗い迷いの雲は晴れて、明るい喜びの中に立つ。陽気ぐらしとは楽しみづくめの生活である』



教務支庁第百回記念祭 (R183. 9. 2) はコロナ禍の中、肅々とつとめました。

現れる。皆々心勇めば、どんな理も見え、どんな花もさく」とあります。

本年は、お仕込み頂いているこの大節の中でも、私達ようぼくは、親神様を確り見つけ、そして、親心に添わせて頂く努力を惜しまずさせて頂いて、日々に徳積みに励むことが大事だと思います。

朝、夕のおつとめをつとめさせて頂き、ひのきしんの実践をさせて頂き広く社会へ伝わりま

すよう、私達お道の者が、陽気ぐらしの実行をさせて頂く。心を合わせ頼もしい道を作り

てくれ、あれでこそ真の道であると世界に映さにならん” (明35・9・6)

今年こそ、新型コロナウイルスの収束を願い、一日も早く元の世界へと治まりますよう、共々心勇んでつとめさせて頂きましよう。(教区長)

◎今を生かされて

いることに感謝

総務部長 矢島建身

昨年は、新型コロナウイルスの事情により、教区活動中止や全教的な行事もことごとく取り止

めになり、誠に残念の極みです。本年はこの感染が拡大になるのか、減少に転ずるのかまだまだ不透明であります。感染症が終息した先、人類の生き方はどのよう

に変わればよいのか。私達は時代の要求に目と耳を傾け、教会は変わりゆく社会とどう向き合

い、先行き不透明な社会を手探りで歩む人々と、どう関わって

いくのか、熟慮を重ねさせて頂く必要があると思います。医学は病原体のメカニズムを

解明するであろうし、抗ウイルス薬、ワクチンを開発し、病原

体を制するでありましよう。今回の感染症の世界的な大流行に直面し、私達は新しい薬や

ワクチンの開発に必要な時間と比較にならない速さで、ウイルスが蔓延することを知り、私

達が出来ることはマスクの励行、手指の消毒、昔も今も人と人の接触を断つことだけ。もう一つは、各自の免疫力の増大を図ること

であります。陽気ぐらしを教えられている私達は、親神様の思召に沿わない自分中心の心遣いを「ほこり」と仰せられています。この八つ

の「ほこり」は交感神経を刺激し、免疫力の低下を招く。笑うことで身体に変化、人を泣かせたり、怒らせたりすることは簡単。しかし、笑わせることは、とても難しい。

今、まさに苦しんでいる人を笑わせることは、手を抜いては出来ない。苦しんでいる人の顔に笑顔を取り戻せたら、大きな大きなおたすけ。相手の眉間によったシワを笑いによつて開く。やがて腹を抱えて笑えるようになったら、親神様のお望みの姿。

笑いで健康を手に入れる。病の元は心から—今を全力で生き、今を全力で喜ぶ。

今を生かされていることに感謝。おかげ様に感謝、皆様に感謝、そして親神様に感謝。

◎新しい日常を前向きに

布教部長 美田伸一

常日頃は教区支部に於かれまして、布教活動に御尽力下さいまして誠に有難うございます。

昨年からの新型コロナウイルスという未知なる感染症の拡大は、否応なしに私達の生活を一変させましたが、「新しい日常」を通して平穩無事に日々を過ごせるようにと、前向きに考え、感謝の気持ちを深くする一年でありました。当たり前が当たり前では無いことで不便さを感じることもありますが、「変わる」状態を楽しもうとすることで、見えなくなっていたものが見えるようになり、大切な事柄を深く味わえる気がいたします。

「平穩無事」という言葉には、何か心安らぎのようなものを覚える気が致しますが、「何も起きなかった」一年はありませぬ。その事柄を通して、何とかして乗り越えようと動いていると、多くの人々が支えて下さり、人の心の温かさや強さに、ますます支えられるのです。困難を乗り越えた先に、「平穩無事」な今があることを有難く感じられるのでしょうか。私達、お道の方は困難に直面する方々を支

え、たすけ合いをしていかなければなりません。昨年は十分な布教部活動が出来ませんでした。本年は従来からの活動はもとより、たすけ一條の地域活動の充実を見せて頂きますよう、共々に前進の歩みをさせて頂きたく、本年もなお一層の御協力の程を、何卒宜しくお願い申し上げます。

◎「陽氣遊山」を目指して
福祉厚生部長 関野 保

昨年中は福祉厚生部活動の上に御尽力賜り、誠にありがとうございます。この一年を振り返ってみますと、コロナウイルス大流行により活動そのものがお手上げで、何か良い方法はないかと思案していると、次の「おふでさき」が浮かんで来ました。

浮かんて来ました。せかいにハ これらとゆうていふけれど 月日さんねん しらす事なり 第14号22 せかいぢゆう どこの人でもをなち事 いづむばかりの 心な

れども 第14号23 月日にわ にんけんはじめかけたのわ よふきゆさんが みた いゆへから 第14号25 おふでさき注釈によれば「コレラ」の流行は、我が国では明治10年以來であるが、当時は程度の差こそあれ、毎年のように流行して、多くの人が命を失った。大和地方でもやはりこの頃流行したのである。

親神様はこれを「流行病」と

「新たな芽生えを 楽しみに」
教務部長 大野 成一

かつて、初代会長出身の地を訪ねたことがあります。石川県能登半島の付け根に位置する七塚町が初代の出身地です。函館から、おぢばへ向かう途中、寝台列車で、朝六時頃金沢駅にて下車、ローカル線で15分程の距離でした。日本海に面して細長く続く町で砂の上に家々が建っているのには驚きました。

考えるにとどまらず、この奥に含められた、人間精神浄化の真意を悟らねばならぬとお教え頂いている。先のおふでさきには、親神様が人間を創造された意図は「陽氣遊山を見たいから」と述べられている。

「人が互いに立て合い、救いがあります。そこで各支部の皆様が献血推進をお願いさせて頂きました。

又、行き詰っていた「婚活活動」も部員のK氏の尽力で「オンライン」活用の情報により進められているところです。更に里親活動もオンラインでの研修会を予定しております。内容は、里親啓発ビデオ、グループワークを中心と予定しています。

このコロナによる何かと不自由な日々ではございますが、「陽氣遊山」を目指して歩みを進めていきたいと思っております。

その初代から受け継ぎ五代目となる私ですが、反省すべきことばかりで、先人の方々のお喜びいただく姿には到底及びませぬ。そんなとき、初代の言葉

静かに眺め理を見つめ、神を見つめ、すなおに伸びて行かなくてはなりません。嬉しい、有難いと云う感激の気持ち湧いてきて働かされて頂かなければなりません。かうして行くところに我々信仰の歩む道があるのではありますまいか。

新型「コロナウイルス感染症」によってお出直しになられた方々とそのご家族に対して、謹んで哀悼の意を捧げます。現在、感染者の治療の最前線で懸命にご尽力くださっている医療従事の方々をはじめ

初代会長手記の中の一節に『成つてきた事実という事は否

私が、こうして生きて行かれると云う事実の底には神様の大きな思召があるのであります。言葉を換えて言いますれば、神様は我々に対して何事かを望ん

め、感染拡大防止と社会生活の維持に取り組んでくださっているすべての皆様に、心から感謝の意を申し上げます。そして、罹患されている方々の一日も早いご回復と、社会的・経済的困難に直面している方々の生活の安定をお祈りしています。

でえられるという事です。私は何時も、こう思わして頂いております。

—中略—

働かして頂くにも、生きて行くにしても、一番肝心な事は…何時?という旬の理…何処?と云う自分の心の捨て場所…誰?という自覚から生まれてくる私。この三つではないでしょうか。

現れて来なければならなかつたこと云う事は、深い自分の因縁ではありますまいか。自分の因縁は誰が果たして行かねばならないのでしょうか。

因縁で苦しんでいる我々を喜んで行ける道に引き出して下さろうとして下さいます。我々は、今喜んで自分の因縁果たしの上に與えられた旬の理にのって勤めさせて頂かねばなりません。私自身に与えられた理を受けて、小さなものであつても心からなるものを神様に御供へして頂くのみ。』

私は、この初代の精神を思いだし、事ある度に、勇ませても

らっております。

現代社会の、めまぐるしく揺れ動く世上の変化、情報量の多さには、驚きと戸惑いを覚え、教会にあつても大きな変革の時期である、と認識いたしております。

しかし、この時代の変革の中にこそ、教祖の教えを信じるお互いが、教祖のおひながたを本に、行動と思案を重ね、手をとって努力していくところに、新しい芽生えが、また発展の姿があるのだと思うのであります。

コロナ禍という大きなふしの中にあつても同様だと思ひます。「なんでもこれからひとすぢにかみにもたれてゆきます」(三下り目七つ)

親神様のお言葉に触れるとき、どんなに辛く悲しみの中にも、心を癒し、明日への希望を感じさせてくれます。そこには、大きな親心が溢れています。

今は、目に見えなくても、末代のたすかりと聞かせて頂くお

互いは、目先のことにとらわれすぎず、日々感謝と喜びをもつて、それぞれに与えられたご用を实践すること。これが子、孫に写り、いつも明るく勇んで、喜び多い日々を過ごしていたならば、この道の素晴らしさを、伝えられるのではないのでしょうか。

この道につながるお互いは、先々を楽しみに、しっかりと丹精に当たらせていただき、期間限定ではなく、常に、それぞれの旬に相応しい成人の歩みをさせていきたいと思いますのであります。

昨年は、教区管内では新たに15人の会長さんが誕生しました。教務という部署を担当して、2年が過ぎようとしておりますが、教区管内に繋がります教会の皆様の一助となれるよう教務部員一同、お運び及び法人願書のお世話取り等に当たらせていただきますと存じますので、今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

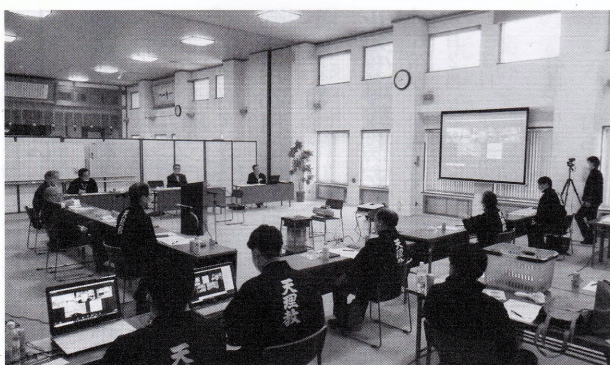
支部長会議を

リモートで

昨年(2020)の第百回教務支庁記念祭の際に「新型コロナウイルス感染拡大のなか支部長会議をリモート会議で開催できないだろうか」という提案があり、その時の事務局員が中心となり、開催に向け検討をいたしました。

教区長先生、主事先生の声掛けもありZOOMというアプリを使い10月2日たすけ推進会議を一部リモートで開催し、その際、庶務部の下に運営チームが編成され今後の運営を任せられました。そして、支部長先生方に

は多大なるご理解ご協力を頂き11月2日に支部長会議を完全リモートで開催する事ができました。その時の課題をクリアすべくチームで相談をいたしました。新型コロナウイルスの感染拡大の為12月は開催を断念する事態となりました。このような状況に対応しながら今年から再び支部長会議はリモートを活用しての開催となります。すでに教区災害隊や青年会などはリモートでの会議を積極的に取り入れていくこととす。今後とも教区支部活動の後押しができればと思ひます。(担当高橋)



◎超大型アクリル板を設置 基礎講座事務局長

藤野充普

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大の為に、本講座を開催することができませんでした。しかし今年は感染防止対策を十分講じ、安心してご受講頂けるよう準備を進めております。その対策を一つ紹介します。

今回の感染経路としては飛沫(ひまつ)と云ってくしゃみ、

◎婦人会 主任 山本亨子

成人目標

ひながたをたどり陽気ぐらしの台となりましょう

活動方針

元をたずねご恩報じの日々を「百万会員を目指して 一人が二人の会員を守護頂きましょう」

立教百八十四年の新春を迎えました。皆様如何お過ごしでしょうか。

昨年は世界中がコロナ禍の中、迷い悩み悲しみ不安を抱えて手探りしながら感染拡大を抑える対応を学び、実行してきた日々でした。その中でも変わらず太陽が大地を照らし、月が夜空に輝き、親神様の御守護を頂

咳、唾によって放出されたウイルスを吸い込むことによって感染するリスクが高いとされ、これを最大限に防ぐため、超大型アクリル板を演台に設置しています。これにより、講師と対面する受講者へ直接的な飛沫を9・9%防ぐことができます。

受講されます方はマスク着用の上、是非とも基礎講座をご受講頂ければと思います。

本年も基礎講座をよろしくお願いたします。

お祈り申し上げます。

お教え頂いたお陰と御礼申し上げます。

お助けの喜びと笑顔に包まれると信じております。

何か、大切な事は何かと思う時、私達女性の徳分をしつかり自覚すること、家族として夫婦、親子が仲良くすること、ご恩を感じる心を育ち育てる大切さが急務と感じております。そしてたすけ道場である教会の委員長がまず台としてぶれない信仰と心温まる安心できる雰囲気をもし出すことが、ご縁ある方々と繋がりあい、その心がお助けの喜びと笑顔に包まれると信じております。

るく喜びの日を重ねてまいりましょう。

いつも御協力賜り誠に有難うございます。まだまだ自粛生活が続いております。お大事になさって下さい。そして本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

◎少年会北海道教区団

団長 久米田忠彦

昨年中は全ての行事が中止になり、何も出来ず誠に申し訳ありませんでした。

まずは、新型コロナウイルス感染症の終息を願うと共に、本年の皆様のご健康と、ご多幸をお祈り申し上げます。

この中、昨年から継続し続けていることですが、子供たちが目指すようぼくの姿を、私自身が写させて頂くということも今年も実践させて頂こうと思っております。

このような状況でも喜びを見つけられる自分、喜びの言葉を伝えられる自分、おやさまの言葉を伝えられる自分を目指し励めさせて頂きます。

何が出来るのか、しっかりと考え何かさせて頂きたいです。何卒今後とも変わらぬご協力とご支援をよろしく御願ひ致します。

新会長さん紹介

(令和2年10月26日お運び) 天塩支部

士別分教会(桜井) 奉告祭 令和2年11月14日



窪田大安氏 (57歳)

(令和2年11月26日お運び) 札幌北西支部

幌部分教会(夕張) 奉告祭 令和2年12月5日



藤田豊氏 (41歳)

小樽支部

山洋分教会(山名) 奉告祭 令和3年1月30日



堀江智一氏 (52歳)

函館支部

巴港分教会(洲本) 奉告祭 令和3年1月31日



笹田信行氏 (40歳)

けいじばん

◎法律に関わる諸問題でご相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁書記・渡部までご連絡下さい。

◎毎月26日に本部月次祭遙拝式を行なっています

北海道教務支庁日誌抄

- 11月26日 本部月次祭遙拝式
- 12月2日 支部例会資料配布及郵送
- 3日 任命願書発送 事情願書発送
- 21日 リモート会議運営チーム打ち合せ

2月の教区報は、休刊致しますのでご了承下さい。

編集後記

令和2年12月なかばから空知地方、特に岩見沢市が豪雪に見舞われた。当別方面から入ってきた雪ぐもが山地にぶつかり大雪を降らす。2月頃ドカ雪まつりがあるが、今年はコロナでどうなるか。同じ頃日本列島大荒れ、群馬県では20センチ超で交通困難となった。以前、災救隊の一員として新潟の豪雪で埋もれている教会を何軒も掘り出したが、向こうの雪はとにかく重かった。何にしても今は全てがコロナ禍とともにある。